

編集後記

臨床の場において若い先生方だけでなく、我々経験を積んだ医師においても不可解な問題に直面します。その際に知的好奇心が動き、教科書を開き、文献検索等も行い解決を求めますが、ある結論に達して、症例の新規性があればそのまま症例報告につながることもあります。しかし日ごろの臨床に忙殺され、結局結論も出ないまま一旦記憶から離れてしまうことも多いと思われまます。ところが2回目にあらためて同じような症例に遭遇した場合はそのラッキーな体験を逃さない気持ちが大切です。すなわち1回目の未解決であった苦い記憶がよみがえり、その後少し経験も蓄積され、そして今回こそリベンジ的な気持ちがわき、その勢いで症例報告にまでできればよいと思います。苦勞して書いた論文が20年以上後に注目を得て発展することもあります。私が日本で発見したPerry病もその初報告は1975年でした。その論文に出会ったときにその1行1句がとても新鮮で目の前の患者さんとの類似性に驚愕したものです。沖中重雄先生の「書かれた医学は過去の医学であり、

目前に悩む患者の中に明日の医学の教科書の中身がある」の言葉は今でも、そしてこれからも大事にしたい言葉です。

臨床神経学は大変面白い雑誌です。日頃の臨床の中で解決できなかったものが報告されていたり、解決のヒントになったりすることがあります。臨床神経学の素晴らしさは共に学び成長することです。症例報告や研究報告を通じて個人が成長するのはもちろんですが、読者にとってもそれを読むことで触発される波紋のような広がりがこの分野の財産となります。目の前の疑問を流さずになるべく多く報告することがこういった理由から必要であるということです。回診をしていてこれは症例報告に値するのではと考えた時に、教室員はすでに察してもうすでに報告されている、とか特に珍しい症候ではないとか理論武装をしますが、指導医はそれを乗り越えて症例を埋もれさせないようにすべきです。これからもより多くの論文投稿をお待ちしております。

(坪井義夫)

〈編集委員〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利
			櫻井 圭太
柴田 護	下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰
			坪井 義夫
			中嶋 秀人
			新野 正明

「臨床神経学」	第63巻 第4号	2023年4月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		西山 和利
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>